

令和 5 年 6 月 9 日現在

機関番号：16401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K02431

研究課題名(和文) 北欧におけるICTを活用した協働構築型キャリアガイダンス専門人材育成に関する研究

研究課題名(英文) A Study on Professional Development of Practitioners on Co-careering Approach of ICT-based Career Guidance in Nordic Countries

研究代表者

森田 佐知子 (Morita, Sachiko)

高知大学・教育研究部人文社会科学系人文社会科学部門・准教授

研究者番号：30743091

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、協働構築型(Co-careering)アプローチが北欧及びバルト三国のキャリアガイダンス・プラクティショナーの養成カリキュラムに与えるインパクトとプラクティショナーに求める具体的な能力要件を明らかにすることで、日本のキャリアガイダンス実施者育成への示唆を得ることを目的とした。研究の結果、デンマークやノルウェーでは国家レベルでeGuidanceのシステムとフレームワークモデルの開発が進んでいること、協働構築型アプローチに関する実践的な研究と教育の機会が求められていること、人工知能や仮想空間の発展に関連してプラクティショナーに今後求められる能力要件が明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

COVID-19の影響もあり、近年日本においてもICTを活用したキャリアガイダンスが急速に普及した。このような状況下において、ICT先進国で開発された協働構築型アプローチやデンマークのチャットを活用したeGuidanceにおける4Cモデル、そしてノルウェーの統合的デジタルキャリア支援のフレームワーク等はアフターコロナの日本における実践でも大いに参考になると考える。さらに人工知能(AI)を活用したキャリアガイダンスと採用選考に関する研究成果は専門家の実践における指針構築に役立つ。またテキストを開発し出版したことで、研究成果をプラクティショナーやクライアントなど広く社会に還元・貢献できたと考えられる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to determine the impact of the Co-careering approach on the professional development of career guidance practitioners in the Nordic and Baltic countries and the specific competence requirements for practitioners, in order to obtain implications for the training of Japanese career guidance practitioners. The results of the study revealed that eGuidance systems and guidance models are being developed at the national level in Denmark and Norway, and that there is a need for practical research and educational opportunities on the Co-careering approach. In addition, competence requirements for practitioners in relation to development of artificial intelligence and virtual space were also identified.

研究分野：キャリア開発

キーワード：北欧 ICT 協働構築 キャリアガイダンス キャリア開発 専門人材の能力開発 人工知能(AI)

1. 研究開始当初の背景

Kettunen (2017) によれば、ICT、特にソーシャルメディアを用いたキャリアガイダンスの実践において、キャリアガイダンス・プラクティショナーに求められるコンピテンシーには4つの段階があるとされている。この4つの段階の最上位に位置するのが「協働構築型(Co-careering)アプローチ」である。研究開始当初の本研究の核心をなす学術的な「問い」は、この協働構築型(Co-careering)アプローチが、北欧及びバルト三国におけるキャリアガイダンス・プラクティショナーの専門性開発の在り方をどのように変えるのか、という点であった。

協働構築型(Co-careering)アプローチ以前のキャリアガイダンスにおけるICTやソーシャルメディアの活用はいくつかの段階を経て拡充してきた。それはキャリアに関する情報提供のツールとしてスタートし、e-mailやチャットを使ったe-guidance (Offer, 2004)へと発展した。さらにソーシャルメディアが加わることでKettunen (2017)が示すコラボレイティブなキャリアに関する学びの場が醸成されてはいたが、協働構築型(Co-careering)アプローチのコンセプトである専門知識の共有と意味ある協働構築には至っていなかった。しかし協働構築型(Co-careering)アプローチでは、キャリアガイダンス・プラクティショナーの役割が大きく変わる。キャリアガイダンスの場は一つのコミュニティと捉えられ、場のダイナミズムが働くようになると考えられた。

2. 研究の目的

そこで本研究では、協働構築型(Co-careering)アプローチが北欧及びバルト三国のキャリアガイダンス・プラクティショナーの養成カリキュラムに与えるインパクトと、キャリアガイダンス・プラクティショナーに求める具体的な能力要件を明らかにすることで、日本におけるキャリアガイダンス実施者育成への示唆を得ることを目的とした。

先述の通り、協働構築型(Co-careering)アプローチはこれまでのICTやソーシャルメディアを活用したキャリアガイダンスにおけるアプローチを発展させた手法ではあるが、キャリアガイダンス・プラクティショナーが初めて「コミュニティの参加者」としての立場をとるといふこれまでとは全く異なるアプローチでもある。クライアントと全く同じ立場からガイダンスを実施するためには、これまでとは大きく異なる能力要件が求められると推測された。クライアントとの新しいコミュニケーションツールとそれによるキャリアガイダンスの変容をどのように専門性開発のカリキュラムに反映させていくのか、という課題は日本を含めた全てのICT社会共通の課題であり、この課題の解決に取り組む点に本研究における学術的独自性、創造性があると考えた。

3. 研究の方法

本研究では以下3点の研究課題を明らかにすることを目標とした。

- 1) 北欧及びバルト三国におけるキャリアガイダンス・プラクティショナー養成制度の最新動向を明らかにする。
このことについては、これまでの研究で調査が完了していない、ノルウェー、ラトビア、リトアニアにおけるキャリアガイダンス・プラクティショナー養成制度の最新動向を調査し整理しておくこととした。整理にあたってはEUレベルにおける動向も文献調査にて俯瞰する。また上記3か国の教育省もしくはEuroguidanceを訪問し、現地でしか得られない一次資料も収集することとした。
- 2) 学士課程におけるキャリアガイダンス・プラクティショナー養成カリキュラムにおいて、ICT及びソーシャルメディアを活用したキャリアガイダンスに関する指導がどのように位置づけられているのかを明らかにする。
このことについては、北欧のキャリア・プラクティショナー養成の学士課程カリキュラム、もしくは特別プログラムを持つ大学を訪問し、カリキュラムの実施責任者へのヒアリング調査を実施する。養成カリキュラムにおいて、ICT及びソーシャルメディアを活用したキャリアガイダンスに関する指導は必須モジュールの一つとして位置づけられているのか、選択モジュールの一つとして位置づけられているのか、またそれぞれのケースにおける指導内容についても明らかにすることとした。またエストニアは学士課程における養成カリキュラムを持たないが、現在、Career CounselorとCareer Information SpecialistをCareer Specialistという新たな専門家に統合しつつある。この統合プロセスにおけるICT及びソ

ーシャルメディアを活用したキャリアガイダンスの位置づけについても合わせて調査することにした。

- 3) 協働構築型 (Co-careering) アプローチにおける「コミュニティの参加者」としてのキャリアガイダンス・プラクティショナーの役割の本質と、求められる具体的なスキルを明らかにする。

このことに関しては、キャリアガイダンス・プラクティショナーを「コミュニティの参加者」としたときに、彼らの役割はこれまでのファシリテーションからどう変わるのか、また「コミュニティの参加者」の立場から、当該コミュニティが持つキャリアの課題をどのように解決していくのかを明らかにすることを目標とした。調査フィールドとしては、協働構築型 (Co-careering) アプローチが開発されたフィンランドと eGuidance の先進国であるデンマークを選定した。フィンランドでは、協働構築型 (Co-careering) アプローチの実践方法詳細に関する一次資料を収集するとともに、北欧を中心としたキャリアガイダンス・プラクティショナーとの交流を通じて実践にあたりプラクティショナーが課題と感じていることを探る。デンマークでは、eGuidance を担当するキャリアガイダンス・プラクティショナーへのヒアリング調査を通じて、実践現場において求められる知識やスキルを明らかにすることを目標とした。

4. 研究成果

本研究の主な成果としては以下の8点があげられる。

- 1) まずラトビアについては、Latvia University of Life Sciences and Technologies の修士課程プログラム (Career Counsellor) のディレクターに加えて、Euroguidance Latvia や State Employment Agency を中心に現地ヒアリング調査を実施した。その結果、ラトビアでは2007年に最初のプラクティショナーの職務基準が内閣に承認され、これを基にプラクティショナー養成のための修士号プログラムが開発されるという独自の養成制度を発展させていることが明らかとなった。また本プログラムではカウンセリングにおける ICT 活用が2年次必修科目として位置づけられ、基礎的な IT の利活用はもとより、年齢や社会階層の異なる人々との仮想コミュニケーション能力の向上までを教育目標としていることが明らかとなった。
- 2) ノルウェーでは Karriereveiledning.no における実践を中心に調査を実施した。ノルウェーでは対面とデジタルのキャリア支援を繋げる「統合的デジタルキャリア支援」のフレームワーク開発と実践が進んでおり、アフターコロナにおける日本のキャリア支援にも参考になり得る新しい取組である。この点については現在調査を継続しており、研究結果については2023年度に研究論文としてまとめて発表する予定である。
- 3) エストニアについては、キャリア支援専門家の職業資格要件における ICT 活用能力に関して、これまでの調査データと近年の文献資料を統合的に分析・再検討した。その結果、専門家自身の ICT 活用能力だけでなく、クライアントの職業情報収集・活用能力を向上させる力を能力要件に組み込むことの重要性が示唆された。
- 4) ソーシャルメディアを利用したチャットカウンセリングの理論として有名なデンマークの4Cモデルの根底には、日本では普及が進んでいない Skilled Helper Model (ジェラード・イーガン) がベースの理論の1つとなっていることが明らかとなった。このことを受け、チャットを使用したキャリアカウンセリングの課題解決に対する Skilled Helper Model の有効性を分析した。分析の結果、Skilled Helper Model は、チャットを活用したキャリアカウンセリングの課題である①少ない情報量でのクライアントのアセスメントと②相談動機が曖昧なクライアントへの対応、の2点いずれにも有効であり、中でも、援助契約、焦点化、継続的な評価、の3つを取り入れることでこれらの課題の解決につながることを示唆された。
- 5) フィンランドのユヴァスキュラ大学 (教育研究院) で開催されたキャリア支援専門家研修に参加し、協働構築型アプローチの詳細とその実践に関してプラクティショナーが直面している課題を探った。その結果、協働構築型アプローチは非常に複雑であるため、多くのプラクティショナーがより実践的な研究の蓄積と能力開発の機会を求めていることが明らかとなった。
- 6) 欧州のキャリアガイダンス研究者やキャリアガイダンス・プラクティショナーとの意見交換から、近年の人工知能 (AI) の活用が、プラクティショナーに求める能力を大きく変える

可能性があり、今後の研究の蓄積が期待されることが明らかとなった。なかでもキャリアガイダンスと採用選考における AI 活用に対する学生の意識に関する調査や AI を使ったキャリア支援における倫理的課題の研究が期待されることが明らかとなったため、まずは AI を使ったキャリアカウンセリングと採用選考に対する日本の大学生の意識調査を実施した。分析の結果、AI を使ったキャリアカウンセリングは学生から概ね賛同を得られた一方で、AI を使った採用選考には大きな抵抗が見られた。このことから、プラクティショナーはキャリアガイダンスの中で、企業等の採用選考における AI 活用の実態や対応策などについて指導する力が求められることが示唆された。

- 7) 本研究から得られた知見をもとに、日本の専門家を対象とした「ICT を活用した協働構築型キャリア支援専門家育成プログラム」を開発して試験的に実施した。さらにその効果検証とともに、研修中に当該テーマに関するフォーカスグループインタビューも実施した。その結果、開発したプログラムは専門家の継続学習意欲の向上に効果があること、今後専門家には、対面と ICT を使い分ける能力、ICT を利用して人と人や人とリソースを繋げる力、仮想コミュニティでのクライアントとの対話からニーズをサービス化していく力が求められるという新しい視点を得ることができた。
- 8) 本研究から得られた知見をクライアントの視点から捉え直し、特に若年層のクライアントが自身のキャリア形成に係る情報収集・活用能力を向上させるためのテキストを開発し、出版した。これは日本のキャリアガイダンス・プラクティショナーの多くが重要だと指摘した内容であり、日本の大学生に対するキャリアガイダンスやキャリア教育の授業、そして対面・オンラインいずれのカウンセリング等でも広く活用できるものとなっている。

今後の課題としては、まず、ノルウェーの Karriereveiledning.no における実践の調査を継続することで、対面とデジタルのキャリア支援を繋げる「統合的デジタルキャリア支援」のあり方を考察し、実践に活かせるモデルを構築することである。2 点目は、人工知能 (AI) を活用したキャリアガイダンスと採用選考のうち、クライアントからの抵抗が強い採用選考に関して、クライアントの属性や学習歴・経験による意識の違いを分析したり、クライアントが正しいデジタル・キャリアリテラシーを習得できる教育プログラムを開発することである。これらについては今後の課題として研究を継続したい。

引用文献

- Kettunen, J. (2017). Career practitioners' conceptions of social media and competency for social media in career services. Jyväskylä, Finland: University of Jyväskylä, Finnish Institute for Educational Research. Studies, 32. Dissertation.
- Offer, M. (2004). What is e-guidance? Using information and communications technology effectively in guidance services. Manchester: Graduate Prospects and HECSU.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 森田佐知子・那須清吾 | 4. 巻 19 |
| 2. 論文標題 実践共同体としてのオンラインキャリア教育授業の効果と課題 社会的相互作用のモデルをてがかりに | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 大学教育研究ジャーナル | 6. 最初と最後の頁 14-27 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |
| 1. 著者名 森田佐知子・高橋俊・永田信治・福間慶明・吉岡一洋・井上菜月 | 4. 巻 26 |
| 2. 論文標題 高知大学におけるキャリア教育体系化の取組（3） 「学士課程を通じたキャリア教育の体系構築及び実施要項」の運用とキャリア教育のオンライン化を中心に | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 高知大学教育研究論集 | 6. 最初と最後の頁 1-15 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |
| 1. 著者名 森田佐知子 | 4. 巻 26 |
| 2. 論文標題 スウェーデンにおける社会民主主義的キャリアガイダンスと学習社会：個人の生涯学習を促すキャリアガイダンスと専門家に求められる力 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 国際教育 | 6. 最初と最後の頁 35-54 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |
| 1. 著者名 森田佐知子 | 4. 巻 18 |
| 2. 論文標題 大学のキャリア形成支援におけるAI教育の必要性：採用選考におけるAI導入への学生の意識に着目した探索的研究 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 大学教育研究ジャーナル | 6. 最初と最後の頁 26-35 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 森田佐知子 | 4. 巻 35(6) |
| 2. 論文標題 デンマークにおける若者へのチャットキャリアカウンセリングとカウンセラーの能力開発 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 教育システム情報学会研究報告 | 6. 最初と最後の頁 197-204 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 森田佐知子 | 4. 巻 19(5) |
| 2. 論文標題 北欧におけるICTを活用したキャリアガイダンスの実践と研究の動向 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 日本教育工学会研究報告集 | 6. 最初と最後の頁 49-54 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 森田佐知子 | 4. 巻 27 |
| 2. 論文標題 ICTを活用した協働構築型キャリア教育の取組 高知大学教養科目「キャリアプランニング」における教育実践 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 高知大学教育研究論集 | 6. 最初と最後の頁 45-56 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-------------------------|
| 1. 著者名 森田 佐知子 | 4. 巻 18 |
| 2. 論文標題 クライアントの職業情報収集・活用能力を向上させるキャリアカウンセリングのあり方 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 キャリアデザイン研究 | 6. 最初と最後の頁 115 ~ 121 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.57448/cdi.j.18.0_115 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

| |
|---|
| 1. 発表者名 森田佐知子 |
| 2. 発表標題 ICTを活用した協働構築型キャリア支援専門人材育成プログラムの効果と課題 |
| 3. 学会等名 教育システム情報学会 2022年度 第6回研究会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 森田佐知子・那須清吾 |
| 2. 発表標題 実践共同体としてのオンラインキャリア教育授業が大学生のキャリア形成に与える効果とそのプロセス |
| 3. 学会等名 経済教育学会第 37 回全国大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 森田佐知子 |
| 2. 発表標題 ICT を活用したキャリア支援における倫理的課題 - 国外における研究動向から - |
| 3. 学会等名 日本教育工学会 2021年度 第3回研究会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 森田佐知子 |
| 2. 発表標題 「Skilled Helper Model」のオンラインキャリアカウンセリングへの応用可能性 - デンマークの事例をもとづいて - |
| 3. 学会等名 日本教育工学会 2021年度 第1回研究会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 森田佐知子 |
| 2. 発表標題 デンマークにおける若者へのチャットキャリアカウンセリングとカウンセラーの能力開発 |
| 3. 学会等名 教育システム情報学会 (JSiSE) 2020年度 第6回研究会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Sachiko Morita |
| 2. 発表標題 The necessity of AI Education in Career Guidance programs: Based on a attitudes survey toward AI in recruitment processes |
| 3. 学会等名 IAEVG2022 International Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2022年 |

〔図書〕 計1件

| | |
|--------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 森田佐知子 | 4. 発行年 2023年 |
| 2. 出版社 学術研究出版 | 5. 総ページ数 216 |
| 3. 書名 デジタル時代のキャリアデザイン | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| | |
|---------|---------|
| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|